

令和7年度前期授業改善計画（基盤教育群）

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
1101	基盤教育群	スタートアップセミナーⅠ	スタートアップセミナーⅠは、大学で学ぶ上で必要なアカデミック・リテラシーを講義形式で学ぶとともに、学群に特化した内容を通じて、課題解決に向けた主体性や協調性を涵養するために少人数でのグループワークも行われています。講義形式での理解をグループワークで実践しやすいように、学群に応じて話題や題材を工夫し、学生の興味や関心に沿ったレポート課題をテーマに選んでいます。今後とも、フレッシュマンコアの導入科目として、学生同士が互いに学び合える機会を増やし、楽しみながらアカデミック・リテラシーを身に付けられるよう創意工夫していきたいと考えています。
1103	基盤教育群	コミュニティ・プランナー概論及び演習	【自由記載：良かった点】（抜粋） ・グループワークが多くて良かった ・ワークショップ的な講義がどの回も面白かったです →コミュニティ・プランナープログラムにおける、地域での実践活動の前段階として、実際に地域社会で活動している方々の講話や、ワークショップ等による実践的な手法に関する講義を設定した。そこから得られた知識だけでなく、他者と関わり議論を交わしながら学ぶ経験をコミュニティ・プランナー開講科目をはじめとした今後の学習活動や実践に活かして欲しい。
1104	基盤教育群	コンピューターリテラシー	本授業は、大学生活に必要な基礎的なコンピューター・リテラシーを身につける科目として、一定の教育効果を上げている。PCの基本操作、Word・Excel等のMicrosoft系アプリケーション、文章作成、AIの基礎知識を幅広く学べた点や、演習中心の構成により実践的に理解を深められた点が高く評価された。最終課題のWebページ制作についても、難易度は高いものの、達成感と学習効果が大い課題として機能していた。一方で、説明のスピードが速いこと、大人数クラスのため質問しづらいこと、私語により集中しにくい場面があったこと、グループディスカッションが長いと感じる学生がいることが課題として挙げられた。 今後は、説明を段階的に行い、実演・操作・確認の時間配分を明確にするとともに、質問しやすい時間を意図的に設ける。また、集中しやすい学習環境の整備を行い、グループディスカッションは目的を明確にした短時間・高効率な形式へ見直す。あわせて、補足資料や復習支援を充実させ、理解度に応じた発展的な学習機会も提供する。 これらの改善を通じて、初年次教育としての基礎的デジタルスキルの質を維持しつつ、学習満足度および到達度の向上を図る。 「簡単すぎてつまらない」という意見と「難しすぎてわからない」という意見の両方が、それなりの分量あった。このような入門の講義はバランスの取り方が難しい。基盤科目としては「難しすぎてわからない」学生をなるべく減らす方針で調整したい。より高度な内容を求める学生にはそれに応じた話題を提供するが、それを全員に求めているわけではないことをきちんと説明する必要がある。
1105	基盤教育群	基礎統計学Ⅱ	科目担当者間での取り決めにもとづいて、各教員のクラス運営である。学生アンケートの結果の中には、クラス（学類）の異なる学生間での情報の共有から否定的な意見も僅かに見受けられるが、学類毎の高学年での統計の利用の烈度による差と理解できる範囲と判断している。 各教員のクラス運営についての肯定的な意見は多様な評価として現れており、一概にクラス運営の規律を現在より厳しくすることのデメリットを懸念し、短兵急な対応は控えるものとする。一方で、改善を要する指摘・意見については担当教員全員で共有し、改善を図る。また、数年先のカリキュラム・教授内容の改訂を踏まえて、現状の共有に留まらない、集団教育としての教員組織運営を行っていく。
1106	基盤教育群	English GatewayⅠ	【Xreadingについて】 X Reading は負担の割にあまり役に立たなかったと思います。ある程度の難易度の文章を週2くらいにした方がいいと思います。 X readingの量が多かったと感じた。 改善→負担となっていた可能性もありますが、昨年度と大幅に分量減らしました。その結果、TOEICの平均点が下がったため、今後も学生の取り組み状況をみながら、学生の実態に即した課題設定となるように検討していきたい。また、システム不具合への不満があったため、課題量や課題へのサポートを検討したいと思います。
1107	基盤教育群	English Self-ExpressionⅠ	昨年度の授業評価アンケートへのご協力、誠にありがとうございました。 アンケート結果を踏まえ、以下の点について改善を図っていきます。 まず、各授業の内容および進め方について、クラス間でのばらつきを抑えるため、改めて各担当教員間で確認・共有を行い、一定の統一を図ります。 授業中の英作文活動については、一部の学生から「記述時間が短い」との意見が見られましたが、クラス全体のレベルや授業進行を考慮した上で時間設定を行っていました。今後は、その意図を学生にも丁寧に説明し、理解を促すよう努めます。 英会話活動に関しては、多くの学生が自信を持っていない傾向が見られました。今後は、文法や正確さに過度にとらわれず、「多く話すこと」「間違いは恥ずかしいことではない」という意識を持ってもらうよう、より明確に指導していきます。また、スピーキングテストについて否定的な印象を持つ学生もいるため、その目的や意義（英語力向上のために必要であること）を事前に十分説明することで、理解と納得を得られるよう改善します。 授業内ではペアワークを多く取り入れているため、公平性を考慮し、教員がランダムにペアを決定する方針とします。コミュニケーション系授業ではペア活動が不可欠であり、知らない相手と話すことに抵抗を感じる学生もいますが、徐々に慣れていくことの重要性についても指導していきます。 さらに、使用教室の設備面についても課題が見られました。一部の教室では、スピーカーの音質やスクリーンサイズが語学授業に適していないため、今後は可能な限り設備面が整った教室で実施できるよう、教室配置について検討していきます。
1108	基盤教育群	English for Academic Purposes	読めばすぐわかる要点のまとめを講義内やプリントで何度もやらされるのが苦痛だった。簡単すぎてつまらない。 改善→授業は、レベル分けしていないため、中間の学生に合わせて授業をしています。もし、簡単すぎる場合は、単位認定制度もありますので、そちらで単位を取ることをお薦めします。また、2年後期からの選択科目は、さらに上級レベルの科目であるため、そちらの履修をお薦めします。また、授業進行上の不必要な発言（「この問題は難しくありません」等）が、気に障っていた学生がいたことで、気を付けたいと思います。
1109	基盤教育群	English Expedition	English Expeditionの学生はスピーキングスキルを向上させ、生きた聴衆の前で単独で短いプレゼンテーションを行うようになります。これは将来必ず役立つスキルとなるでしょう。
1110	基盤教育群	中国語Ⅰ	全体として、満足度の高い授業となりましたが、今後さらに良い授業を目指して、以下の点に工夫を加えていきたいと考えています。 ・学生の理解をより深めるため、授業外の学習時間を増やせるような工夫を行っていきます。 ・両クラス間の学生人数に偏りがあるため、そのバランスを調整するための方法を検討していきます。 ・中国語の学習意欲をさらに高めるため、「加点制」などの仕組みを取り入れつつ、さまざまな工夫を継続していきます。 ・使用テキストに加え、中国語圏の社会や文化に関する学習内容も取り入れ、学生にとってより満足度の高い授業を目指します。 ・授業方法にさらに工夫を凝らし、学生が楽しく中国語力を向上できるような学習環境の整備に努めていきます。
1111	基盤教育群	韓国語Ⅰ	言葉はその国の文化を代表するものであって、その言葉を正しく理解するためには関連する文化を理解しなければならない。そこで、韓国語Ⅰの授業では、授業時に韓国語の言葉と言葉に関連する文化についての話がたくさん行われる。今回も言葉に関連して多くの韓国語の文化についての話や関連する映像などを用いて文化の話が行われた。また、コメントシートやメールを利用して学生たちが積極的に質問できるように誘導し、詳しく返事できるようなシステムを構築した。それにより、学生たちは韓国の文化についてより深く理解できたとと思われる。実際に学生から韓国についてより理解が深めたという声が多く見られる。一方、文化についての質問や話についての評価の基準が明確ではないという声もありその改善策も必要とされている。今後、授業概要などに文化についての明確に評価基準を示すようにする。また、韓国語Ⅰについては授業時に小テストを定期的実施している。その理由は授業時に習った単語や会話文が定着しやすくさせるためである。実際に「記憶に定着する」「ハングルを覚えることができた」などプラス的反応が多い。今後も小テストを持続的に実施することでより効果よく韓国語を習得できるように改善していく。

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
1112	基盤教育群	スペイン語I/Spanish I	1. Summarize key points and preview the next lesson during the final minutes of the class to make sure that the goal for the day and the assignments for the next class are fully understood. 2. Have interactive activities when learning new vocabulary to create a more dynamic environment. 3. Design group activities to be done in class that promote oral skills based on spontaneity, and not just memorization, such as role-plays and small presentations. 4. Watch videos to know interesting facts about Hispanic countries and Spain and have presentations that reflect people's social life and their vast cultural diversity.
1113	基盤教育群	憲法（食産）	要望は特になかった。次年度も受講生の満足度を満たす講義の実施を心がける。
1114	基盤教育群	政治学概論（食産）	昨年度、学生評価を受けて、「昨年度 [= 現在からは一昨年度] とほぼ同じような形で授業内容で実施したにもかかわらず、いずれの項目も、従来にない低評価であり、他学においてもここまでの低評価を受けたことがない」と書いたが、今年度も同様の、平均よりやや低い評価であった。一昨年度は純粋なオンライン授業であったが、昨年度および今年度はオンライン・対面ハイブリッド授業であり、これが学生の満足度を下げているのかもしれない。あるいは、受講生の少なさゆえに、たまたま関心に合う人が多くはなかったのかもしれない。受講生の関心に応えるため、授業後のコメントを授業中に取りあげているが、より一層、受講生の声を引き出していきたい。
1115	基盤教育群	国際関係論	【指摘された改善した方がよい点】 授業で見せてくれるスライドに大事なことが書いてあっても、配ってくれるレジュメには書いていないときがあるので、そこは統一してほしい。とくにイラストだとメモが大変。 →講義中でも説明をしたが、著作権等の関係で載せられない情報もあるので、必要と感じた場合は自分でメモを取るようして下さい。
1116	基盤教育群	社会と経済（食産）	「社会と経済」においては、単位を取るために学ぶのではなく、講義を通じて社会や経済に関心を持ったり、新聞等で報道されている中身を理解できるようにしてほしいと思っている。 来年度も、講義内容に関連する新聞記事を配布したり、現実の問題との関係性を説明したりと、教科書の枠を超えて、社会や経済の仕組みに興味・関心を持ってもらえるように工夫したい。
1117	基盤教育群	社会と哲学	資料は電子化されているので分量が多くても管理には困らないと思われる。卒業後、膨大な資料を読み込み、矛盾のない書類を作成する仕事に従事されるむきもあろうかと思われるが、この授業はそのための訓練であると考えられたい。資料が多くなる理由は、箇条書きの知識は哲学には似つかわしくないと考えていること、背景知識・文脈そして論証過程に配慮した厚い記述を目指していること、ひとつの見解をめぐって多くの意見が存在することへの注意喚起、さらなる学修を目指す学生への資料提供、といったところか。
1118	基盤教育群	人口学概論	授業評価による自由記述を踏まえ、今後の授業改善として以下の点を上げたい 授業計画と内容 ・1つの講義について特定のテーマについての解説やデータの紹介を行ったが、情報は随時更新されるので、データをアップデートする必要がある。 ・講義で紹介したデータは基本的にインターネットで公開されているものであるため、ソースを提示することで、今後別の講義課題でも活用可能なようにする。そのためにはサイトの利用についてのチュートリアル作成も検討する。 ・海外のデータが少なく紹介しきれなかったため、今後の検討課題としたい。 課題 ・ほぼ毎回課題の提出を求めた。課題は基本的にその時間の講義内容を反映させてきたが、履修者が多く採点に苦労したこと、課題のボリュームについての意見があったことから、内容とその量について検討したい。 ・講義内容が人口という身近なものであったので、興味を持ってくれた学生が多かったものと思われる。今後なるべく興味のあるようなトピックを加えつつ説明を行いたい、内容が散漫になっている事も否めないため、バランスを検討したい。 ・一方的に話をするだけでなく、双方向を意識した内容を検討する。
1119	基盤教育群	文化人類学概論	ほぼシラバスの計画通りに授業を進めることができ、試験で到達度を確認することもできた。その一方で、アンケートでは試験の難易度について「難しかった」、「時間が足りなかった」といった記述が見られた。試験により達成感を得ることも重要であると考えられるため、これについては改善の必要がある。そのため、事前事後学習が十分に行われていたとは言えない状況も踏まえ、講義中に事前事後学習についてより踏み込んだ言及を行い、事前事後学習で授業の「理解（自身の言葉で授業内容について説明できる）」を深めることの重要性を強調することとしたい。
1120	基盤教育群	生命科学	授業評価アンケートへのご協力、ありがとうございます。皆さんから寄せられたコメントを転記します。 [良かった点] 高校で行なった範囲をより専門的に学ぶことができて良かったです。 事後課題のディスカッションにおいて、様々な意見や視点を見ながら、一つの話題に対して深められた点。生物に関連する最近話題の時事を取り入れたり、歴史や背景を知ることでもできて興味深かった点。 [改善したほうがよい点] 授業後のコメントを提出する期間が1日と短いので改善してほしい コメントを提出する期間が短く、もっと期限を伸ばしてほしい旨は毎回寄せられています。コメント提出期間は、これまで提出期限の設定について試行錯誤を行い、最も事後学修成果の高い期限に設定しています。具体的には、これ以上期限をのばすと、コメントの内容に特に変化がみられず、提出を忘れる学生が増える傾向がありました。是非、提出期間内に、授業内容を振り返りながら、充実したコメントを作成して、理解を深めていってください。
1122	基盤教育群	地球と宇宙（食産）	【この授業に関して、良かった点】 ・動画を見返せるのが嬉しい → 今後も復習用に講義動画を残したいと思います。 【改善したほうが良い点】 ・特に無し 【その他、意見、感想、要望など】 ・個人的にとっても興味のある分野だったので、つかみとなる第1回の講義からとても興味深い内容でいつも楽しく受けさせていただきました。 ・とても興味深い話を聞いて面白かった → 引き続き宇宙科学・地球科学の知見に加えて、それに対する人類のアプローチの模様などの面白みが伝えられるよう、講義構成を考えていきたいと思えます。
1123	基盤教育群	数学概論	学生の自由記載から、ベースについての科目改善は順調に進んでいると考える。演習について量の多い少ないが学生によって別れた結果が示されている。今後の教科書の改訂に際し、演習問題の精査、入れ替えを計画しているため参考とする。教科書の文章については、講義と並行して、かつ講義で口述するものの文書化として意図的に上頁に書いている。問題として扱う範囲が一般・抽象的である記述方法として、学生の学びとなる教材として調整は行うものの、教育目的の基本方針は維持していく。 ■自由記載より（すべて転載） □この授業に関して、良かった点 例えを用いて数学を説明して、理解の手助けとなった。／ベースがちょうどよかったこと。／ 高校での数学とは異なる視点での数学の解き方を知って、数学が面白いと感じたこと。 □改善したほうがよい点 特になし／演習がもう少し多くても良い。／教科書の文章が、ながなが書かれており、読むのに一苦労した。私の理解度が低いものもあるが、もう少し読みやすくしてくれたらうれしい。 □その他、意見、感想、要望など 高校数学は苦手でしたが、大学で学ぶ数学は面白かったです。ありがとうございました。／練習問題がついてるのはとても満足している。
1124	基盤教育群	物理概論	講義中に周囲の学生と議論する時間を設けるなどすることによって、アクティブラーニングを積極的に導入した。事前・事後学習時間が少ないために課題を出すなどの対策を講じた。

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
1125	基盤教育群	化学概論	<p>授業全体としては、概ね計画通りに進行できた。対面形式で実施し、基本的には手書き板書を用いた展開であった。太白キャンパスでは、広い講義室に対応するため電子黒板を活用し、手書き板書による授業を可能にした。手書きでの実施に伴い、文字が読みにくいなどの課題は一部見られたものの、進行速度はおおむね適切に保たれたと考えられる。なお、受講者が多いため、今後はより少人数で、規模の小さい教室での開講が望ましいとの印象を持っている。</p> <p>当該科目では、大学入学前の学習習慣として「問題と解答を暗記する」方法に依存している学生が多く見受けられた。この学習法では基礎理解が十分に身に身につかず、試験で得点できたとしても、学群で開講される専門科目を学ぶための基盤形成にはつながらない。当該科目の設置目的は、専門科目を学ぶための基礎づくりにあるため、次年度以降はこの点を学生に理解させる工夫が必要である。単に試験で高得点を取ることが目的化しないよう、授業内でその趣旨を明確に伝えたい。</p>
1126	基盤教育群	生物概論	<p>この科目では、毎回確認テストを行います。確認テストは、初めは何回でも受けられますので、高校で生物を履修していない学生やたまたまその授業を休んだ学生でも、自分で復習ができるようになっていきます。復習をせずに試験だけを受けていると、後半に1回のみ試験になると、復習しながら毎回試験を受けている学生とそうでない学生の差が大きく開いてしまいます。毎回復習をして理解したうえで確認テストを受けるようにしましょう。</p>
1130	基盤教育群	世界の歴史と文化	<p>クラスサイズが小規模で学生への対応がしやすいこともあり、授業の到達度、進捗ともに特段の問題は見られなかった。その一方で、積極的に授業の内容を発展させて学習しようとする様子は、事前事後学習についてはあまり行われていなかったことも合わせて考えるとあまりなかった。そのため事前事後学習へのアプローチを強化し、授業の発展性を高めたいと考える。</p>
1133	基盤教育群	人と宗教	<p>高校で世界史、特に古代史を学修していない皆さんにとっては、よく理解できなかったようですが、これは自分で勉強していただく他ありません。昨年度は、自分で勉強したいので、世界史の参考書を紹介して欲しい、と申し出た学生がおりましたが、残念ながら今年度はおりました。</p>
1134	基盤教育群	心理学	<p>授業計画のわかりやすさ、授業の要点・内容の整理、教材・説明の適切さ、目標到達できる内容、難易・進捗の適切性、知識や技術の習得・知的関心の喚起については、全授業の平均値とほぼ同じとなっており、また自由記述をみても、全体としては今後も同じ授業を継続していくこととする。その一方で、授業マナー遵守への配慮が全授業の平均値よりも低くなっている。これは、授業の妨げとなる私語等はなかったものの、授業中に講義とは関係のない作業を行っている学生は相当数おり、これを不快に感じている学生が多いことを反映していると考えられる。PC等を用いた課題もあり、またPCを用いてメモを取っている学生もいることから、講義と関係のある作業とそうでない作業を区別するのは困難であることから注意喚起をためらっていたが、今後は講義の雰囲気壊さない範囲で注意喚起していきたい。なお、マイクの使用についての指摘が複数寄せられていることから、配慮するようになりたい。</p>
1135	基盤教育群	健康科学	<p>授業評価アンケート自由記述の主なもの、以下のとおりであった。</p> <p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期待を超える講義で面白かった。 ・青年期の人間発達、がんや感染症、食という大きく分けて3つの分野から健康について、身近な出来事から考えることができたため、非常に勉強になった。 ・心や健康、ダイエットなど興味があることについて、講義を受けることで理解を深めることができた点や、正しい知識を身につけることができた点。 ・教授が面白い点。 ・ストレスコーピングの講義で自分のストレスを数値に可視化でき、改善すべき点が把握できたことで自分への理解が深まった。ぜひ、次年度の講義でも取り入れてほしいと感じた。 <p>改善点（自由記述要約）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし
1136	基盤教育群	スポーツ実技	<p>授業評価アンケートへのご協力、ありがとうございます。感染症対策や熱中症対策等のため制限される活動も多々ありましたが、みなさんの運営協力のおかげでほぼシラバス通り（初回ガイダンスでの説明通り）に進めることができました。また、『良かった点』として、次のような意見を多数いただきました。「単にスポーツをするだけではなく、体の動きの構造や発達の特徴を座学を通して学ぶ機会があり、自分の体の仕組みを理解しながら授業に取り組めた。」、「体の使い方への認識が変わった点」、「自分の体調に合わせて講義にどのくらいやるのかを決めることができてよかった。」、「自分の生活や運動の仕方を見直す機会になり、生活の改善点に気がつけた。」、「普段運動していない人も取り組みやすいメニューで授業に積極的に参加できた。」、「体育のイメージが覆されるような知識を多く学ぶことができた点」、「他学群の人とも交流できた。チームでの活動を通してたくさんの人と交流できたことがよかった。」等。</p> <p>一方、『改善すべき点』は1件でしたが、『レスポンスシートの提出期限が短すぎる点。当日21時までだと、放課後に予定があるとどうしても間に合わない。』という意見がありました。実技のフィーリングを鮮明に覚えていくうちに記録・記載していただく提出期限を設定しています。ただ、毎回説明していますように、実技後の体調変化も含め、個々の事情によってご連絡をいただき、翌日以降も柔軟に受け付けています（小テストではないので体調を最優先にしています）。次年度以降は提出期限の設定も含め、より丁寧に説明していきたいと思っております。</p> <p>『その他』としては、『多様なリズム、テンポの曲に合わせながらの運動は非常に面白かった。』といった音楽に関する意見を複数いただきました。本科目ではリズム要素を重視していますが、次年度以降もスポーツにより楽しくリズム要素を取り入れられるよう工夫していきたいと思っております。</p>
1137	基盤教育群	体を動かす楽しみ（食産）	<p>授業評価アンケートへのご協力、ありがとうございます。</p> <p>感染症対策+熱中症対策等のため、一部制限される活動もありましたが、授業評価アンケートでは</p> <p>『良かった点』としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●運動が苦手な人でも工夫次第でいい成績をとれる、運動が得意な人との差があまり出ない内容が多かった、●友達が増えるきっかけになった、●どんな人にも配慮して楽しかった、●レスポンスシートを通して「体を動かす」ことを分析し自己理解を深めることができた、等の意見をいただきました。 <p>一方、『改善すべき点』としては2件ありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「今流行りの曲をもう少し流してほしい」：この科目ではリズム要素のあるエクササイズを重視していますので、種目特性によって昭和から令和まで、多ジャンルからbpm等で選曲しています（あえてマイナーな曲や合わせにくいリズムの曲も含む）。ただ、レスポンスシートにリクエストがある場合は、実施予定種目の使用曲として妥当かどうか検討していますので、次年度以降はこの枠を増やしていきたいと考えています。 ●「授業でやるスポーツは楽しくない」：毎回のレスポンスシートや本アンケート結果等をみますと、ほとんどの受講生が楽しさややりがいを感じられているようですが、次年度以降はさらに多様な関わり方、楽しみ方が可能となるようしっかり検討していきたいと思っております。 <p>『その他』としては、『レスポンスシートの締切時間を延ばしてほしい』という意見がありました。提出期限については、実技のフィーリングを鮮明に覚えていくうちに記録・記載していただく当日21時に設定しています。ただ、毎回説明していますように、実技後の体調変化も含め、個々の事情によってご連絡をいただき、翌日以降も柔軟に受け付けています（小テストではないので体調を最優先にしています）。次年度以降は提出期限の設定も含め、より丁寧に説明していきたいと思っております。</p>
1138	基盤教育群	スポーツ科学	<p>授業評価アンケートへのご協力、ありがとうございます。自由記述の『良かった点』として、●少人数だったため実際にエクササイズを行ったり、質問にも積極的に答えられたりした、●専門的な体の知識を得ることができた点、といったコメントをいただきました。</p> <p>『改善すべき点』についてはコメントがありませんでしたが、本学には文系、理系の学生がいますので、レスポンスシートの内容等に基づき、かつ受講生の得意・苦手な分野も考慮しながら（シラバスの範囲で）毎回の内容を検討し、必要に応じて個別対応（補習的な内容、応用的な内容、リポート指導含む）を積極的に行っています。次年度以降も授業の内容を個々に合わせた形でサポートできる体制をより強化していきたいと考えています。</p>

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
1139	基盤教育群	福祉入門（食産）	<p>テストを実施するといっているながらその当日忘れていたことは基だ汗顔の至りです。無事実施できましたが改善いたします！</p> <p>「福祉」とはなにか、なぜそのようなになったのか、現在の福祉とはなにか、の概略を説明する授業です。詳しい事項については、テーマごとに勉強してほしいと思いますが、ここ20年間に急激に「社会福祉」が増加し、社会全体の「福祉」像が大きく変わっています。今後も変わっていくだろうから、事柄も重要であるが、福祉の考え方をしっかり学べることを重点として行うことを第1としました。その結果、説明を理解を旨として毎年変えているため、結果として少しシラバスどおりに行かないというズレが生じています。すべてを講義できることが望ましいのですが、これまでの経験から難しいかもしれません。本来は労働まで話してはじめて「社会の福祉」の講義が完成します（社会福祉ではなく）。</p> <p>そのなかで「自分は、食以外にも障害者福祉に興味があったので、福祉について学べると思い、この講義をとったけれど、社会福祉は、障害者福祉だけでなく、家族や貧困などの多くの事柄と結びついていることを知り、福祉は幅広いなと思っし、食と同じくらい私たちの生活には欠かせないものとなるので、食産業学群でも福祉を学ぶ意義を知ることができた。また、講義は、資料だけでなく板書形式だったので、書いて覚えることが多い自分には合った授業方法だった。」というコメントは授業を担当した教員にとってはとても励みになる。食も実は福祉の一環であるとうことに気がつく私の担当する講義で3年生の食料・農業・農村政策の意義がわかってきますし、4年生の企業倫理との関連もわかります。</p>

令和7年度前期授業改善計画（看護学群）

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
2101	看護学群	人間発達学	<p>主な自由記述アンケートの結果は、以下であった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達を生活や実例と結びつけて学べ、新鮮で面白かった 2. スライド・資料・説明が分かりやすく、重点点が明確だった 3. 休憩がこまめで、疲れにくく集中しやすい授業構成だった 4. 学生への配慮や共感が感じられ、安心して受講できた 5. 匿名コメントが使いやすく、参加しやすかった 6. 試験や評価のポイントが明確で、学習や振り返りに役立った <p>改善点として、中間レポートの得点を開示してほしい、テスト日程を初回など早めに知らせてほしい、という声が挙げられたが、得点は開示しており、日程は初回授業で周知している。また、「テストの出題形式が難しいため、もう少し分かりやすくしてほしい」との声があるが、「試験や評価のポイントが明確で、学習や振り返りに役立った」という声が多いため、難しさを感じる人もいるが引き続き理解を求めていく。加えて、例年ではなく「話すスピードをややゆっくりにしてほしい」との声があったので留意して授業を展開する。</p>
2102	看護学群	医療倫理学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「スライドで長文の資料の文字が細かく見にくい」との指摘について、長文資料そのもののワードファイル、あるいは、PDFファイルを、資料ホルダーに収納してあるので、ホルダーを開いて、原文にアクセスするプロセスを分かり易く説明する。また、講義中に、「原文ファイルを必ず参照するように」繰り返し注意を喚起する。原文を参照したうえで、レポートを作成し提出するプロセスについても、分かり易く、具体的に説明する。 2. 「講義に関係ないスライドが多い」との指摘について、テーマに関係のないスライド資料、映像資料は一つとして挙げていない。単に暗記リストとして講義の諸資料を示しているのではなく、より深く探求するきっかけ、答えのない難問に挑み続けるために、一見関係なさそうな資料を提示していることを繰り返して説明する。講義は、やみくもに暗記するための時間ではなく、深く考え続ける入り口であることを分かり易く、繰り返して説明する。「ああ、そういうことだったのか、なるほど」とはっと気が付く喜びに至る方便として示されている資料だ、ということを示して話を進める。 3. 「通説なのか、講師の解釈なのか分かりにくいことがある」との指摘について、講義資料画面の左上に「意見」と明示して、講師の「私的な見解であることを表示している」ことを、繰り返して説明する。
2103	看護学群	形態機能学Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回講義後に小テストが課題として出されるため、少しずつ少しずつ知識を身につけることができた。 ・ 毎時間の小試験によって学習の定着をすることが出来た。 ・ 自宅で小テストを受けられる、小テストの期限が少し長めでありがたい。 ・ 小テストを通して毎回の授業を復習することができた。 ・ 小テストの回答時間が短すぎず。問題文やイラストを十分にみることが出来ない。問題の選択肢にそれなりの量があるため、もう少し長くした方がいい。 ・ 小試験の時間が短すぎると感じられ、無制限にして調べながら解答する方が身につくように感じる。 <p>回答： 小試験の時間は解けるのに十分な時間であることを確認しています。そして、カンニング防止でもあります。時間が足りないのは、試験を受ける前の復習が足りないからでしょう。分らなかつたのであれば、再試験の前にじっくり時間をかけて丁寧に好きなだけ学習したうえで再試験を受けて下さい。再試験のあとも試験問題を復習して長時間学習できます。</p> <p>・ 全部の内容がだじなのは授業で理解できたが、その分復習の方法をどうすべきか悩んだ。 解答： 復習の方法も相談を受け付けます。基本的な学習については講義始めにしました。さらなる説明は個々にどのような学習をして具体的にどのような工夫をするかだと思つるので、単なる一般的説明では伝わりません。</p>
2105	看護学群	形態機能学Ⅱ	<p>学生さんたちは毎回確りと授業についてきてくれました。期末試験でもよく勉強し、頑張りました。今後も、学生さんたちの反応を見ながら、分かりやすく楽しい授業をしていけるような努力を続けていきたいと思つております。</p>
2106	看護学群	保健医療福祉行政論	<p>本学では、保健医療福祉に関する法制度について、体系的に学習する必修科目がないので、これまでの学習と関連付けて理解するためには、毎回の事前・事後学習での積み重ねが重要となってきます。必修に値する知識・理解が必要となる科目ですが、現状としては、ほとんどが保健師を目指す皆さんの履修となっています。法制度に苦手意識がある場合は、資格取得で求められる知識となりますので、各自の学習状況に応じてより主体的な学習が必要となります。授業内容は、知識として求められていることがわかるように、教科書の章や節と対応して構成しているため、講義での授業内容と合わせて、教科書や他の保健医療福祉行政論の教科書（書籍）も活用して学習に取り組んでください。法制度なので、どのような背景があつて、どのような法制度が作られ、どのようなしくみで運用されているか、その中でどのような課題があるのかといった、全体像を捉えることが大事になります。皆さんが理解が難しいと感じているところは、現場に行っても難しいところだと思つています。図書館の書籍数を増やす等、学習環境の改善を図っていきますので、学習していることが社会全体のしくみとしてつながるよう、本科目の講義だけに留まらず、継続した学習も期待したいと思います。質問したり、お互いに勉強し合うなども効果的ですので、授業前後の時間も活用しながら学習していきましょう。</p>
2107	看護学群	学校保健論	<p>学生が到達目標を理解し、自己評価しやすい到達目標を検討する。</p>
2108	看護学群	病態学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 画像資料の掲載元がわかりにくいため、自己学習のときに少し困つた。 回答：例外はありますが、基本的に画像資料の掲載元を記載しています。分かりにくいという日本語の意味がわかりかねます。必要な場合は質問して下さい。また、古い資料の場合、リンクしないこともあります。図のまま利用し、他での学習も踏まえて考察して下さい。 ・ 講義資料に入っていない資料をあえて使っているときは、教えていただきたい。抜けるかどうかかわからない 回答：講義資料に入っていない資料は、①もう既に皆さんが把握しているはずの配布や開示を行った資料だから忘れていたなら復習してねという意味もあるし開示するまでもなく無駄な枚数を省くため、または逆に②やや高度な場合やおまけ的な資料（興味をもつ学生もいるかな？）で絶対学習するまでではない場合です。必要な場合は問い合わせして下さい。 ・ 文字だけでなく、イメージでできるようなイラストがあるとさらに分かりやすくなると思つた。 ・ もう少し見やすいレジュメにして欲しい。文字数が多く分かりにくい。 回答：重要な箇所にはイラストを設けています。イラストがない箇所は、資料/口頭（必要ならメモする、現場に出たらその能力も必要）の説明や自分で調べる等で十分内容（このくらいの能力を身につけないと卒業も困る）、またはさほど重要ではないけど教科書的に話しておく必要がある内容です。イラストをつけすぎると膨大な資料枚数になってしまうので、ある程度抑えています。 ・ 文字数が多いスライドは、語彙を暗記するだけのぶつ切りのスライドではなく、論証として俯瞰的理解としてまとめて1セットのスライドです。それをバラバラにしか説明できないようでは困ります。 ・ 文字だけでなく、イメージでできるようなイラストがあるとさらに分かりやすくなると思つた。 ・ もう少し見やすいレジュメにして欲しい。文字数が多く分かりにくい。 回答：重要な箇所にはイラストを設けています。イラストがない箇所は、資料/口頭（必要ならメモする、現場に出たらその能力も必要）の説明や自分で調べる等で十分内容（このくらいの能力を身につけないと卒業も困る）、またはさほど重要ではないけど教科書的に話しておく必要がある内容です。イラストをつけすぎると膨大な資料枚数になってしまうので、ある程度抑えています。 教科書を全員に買ってほしいと言っているにも関わらず在庫がなくなったら買っても買わなくてもどちらでもよいというのは違うと思う。 回答：これは出版社や生協の事情です。この学科に限らず教科書を買わない学生が増えていて、むしろ出版社や生協が困っています。 ・ 出席確認を遅く、遅刻したとしても遅刻していない人と同等になるのはおかしいのではないかとと思う。 回答：ごもっともな意見です。遅刻自体は成績に反映しない（むしろ露骨に？反映させてはいけない？）ので確かに甘くしています。欠席については学内のルールがあるのでしっかりチェックします。
2109	看護学群	疾病論Ⅰ	<p>学生さんたちは毎回確りと授業についてきてくれました。期末試験でもよく勉強し、頑張りました。今後も、学生さんたちの反応を見ながら、分かりやすく楽しい授業をしていけるような努力を続けていきたいと思つております。</p>
2110	看護学群	疾病論Ⅱ	<p>学生さんたちは毎回確りと授業についてきてくれました。期末試験でもよく勉強し、頑張りました。今後も、学生さんたちの反応を見ながら、分かりやすく楽しい授業をしていけるような努力を続けていきたいと思つております。</p>

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
2111	看護学群	看護情報学Ⅰ	<p>学生からの意見を踏まえて以下の改善を考えたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護職として活動するに当たり、臨床に関することのみを学修しようとする学生もいる中で、本講義は看護職としてのキャリアアップにおいて重要なスキルと知識であることを分かってもらえるような仕組みを導入する必要がある。 ・講義内容を精査し、要点を踏まえて重要である部分を強調するなど教授法を工夫する。 ・演習には必ず課題を出しているがその負担感を軽減するべく、スケジュール管理を検討する。
2112	看護学群	看護学原論	<p>・授業では双方方向の授業を意識し、学生間でディスカッションする時間を取りながら授業を展開しました。自由記述のよかった点としてもこのことに対して肯定的に評価されており、今後もこのような方法を取り入れながら授業を運営していきます。しかし、ディスカッション後に発言する学生（マイクを渡される学生）に偏りがあったという意見がありましたので、この点については多くの学生に発言する機会を与えるよう注意していきます。</p> <p>・看護学原論は「看護とは」「人間とは」「健康とは」「倫理とは」など、看護学を学んでいくための基盤となる概念について学ぶ科目です。そのため、事後課題の内容も抽象的でわかりにくかったという意見がありました。正しい答えを書くことと、何を書けばよいかわからなくなることもあると思います。課題の意図が伝わるような説明をしていきます。</p>
2113	看護学群	ライフステージ看護学	<p>ライフステージ看護学概論Ⅱは、様々なライフステージにおけるリプロダクション機能と精神機能の課題と援助について学ぶ科目でした。当科目では、全ての項目について全授業の平均値を上回っており、皆さんが関心をもって当科目に取り組んだことが見て取れました。特に「難易・進度の適切性」「授業マナー遵守への配慮」「知識や技術の習得・知的関心の喚起」「教材と説明の適切さ」は、調査対象全科目と比較して高い相対値が得られました。皆さんが授業計画に則って教材や説明内容を手がかりに授業に集中して理解を深め、自分自身の目標到達度を高く評価できたことを嬉しく思います。そのことは、自由記載欄の「先生の説明が分かりやすかった」「課題の内容・周知が明確」「話し方が上手で興味が湧く講義だった」というコメントからもうかがえます。一方で、「授業外の学習時間」は、昨年度よりも微増したものの調査対象全科目の平均時間に比べて低かったです。皆さんが授業外にも自己課題に取り組めるよう、授業設計を工夫して展開していきたいと思えます。</p>
2114	看護学群	地域看護学概論	<p>個人ワークやグループワークを通しての学習では、新たな視点での発想や、地域を見る目の気づきについても課題のままと記載されており、関心を持って学習に取り組んでもらえたようで良かったです。教員による講義内容では、今後、さらに地域看護や在宅看護の理解を深めていくための基盤となる知識や考え、捉え方について触れていた授業が多くありました。基本となる知識の学習が積み重ねられていることが、実際に皆さんの成績にも反映されていましたし、その後の学習の理解にもつながってきます。次年度も、教科書や知識の根拠となる資料の活用を取り入れて授業を展開していきたいと思えます。看護の学習の中でも、基礎看護に続いて基盤になる科目ですので、他の科目の学びとも結び付けて、皆さんが看護学の学修をしているよう教材等検討します。</p>
2115	看護学群	リハビリテーション看護学	<p>すべての項目について全学平均値よりも高く、臨地のゲスト講師の講義を多く取り入れた実践的な学習が積み重ねられ、学生の皆さんの満足度も学習到達度も高かったと考えます。課題への取組成果も非常に高かったと評価しています。特にご意見は頂きませんでした。少数授業であり、担当教員、ゲスト講師と学生一人一人の距離感が近く、意見交換できる環境でした。臨地実習においても非常に役に立つ内容で、臨地での実践家であるゲスト講師を賢沢にお呼びしています。次年度も履修者増への努力をしていきたいと思えます。</p>
2116	看護学群	看護学研究法	<p>学生の皆さんにとっては、研究に関する授業は初めてであり、かつ、基礎となる関連科目は12年次であることから、難易度が高い印象が強かったようです。加えて、卒業研究を早期に開始できるために集中開講（週4時間）としているため、事前・事後課題の負担感も大きかったようです。一方で「難しかったが、その都度課題のポイントを教えてくれた」と評価も得ています。研究においても多分野で専門的であることから、学生自身の得意・不得意さによる理解の差も大きい授業内容であることは承知しています。そのため、担当教員の専門性を活かした「L&D」形式をとり、必ず研究論文などの具体例を提示し、レスポンスカードで学生の理解度や、意見・感想をふまえた授業改善や補足は適宜行っていることから、学修達成に至っています。また、具体的な方法論は卒業研究を通して学ぶこともお伝えしており、授業到達目標として下げることはできない科目です。皆さんにできるだけ分かりやすい授業内容や進め方、双方向にコミュニケーションをとって工夫したいと思います。</p>
2117	看護学群	国際比較看護論	<p>この科目は選択科目のため人数が少なかったのですが、しかし、興味のある学生が集まっていたことで、様々な意見交換が出来たと思えます。また、授業内では英語で国際看護について話したり意見交換をする時もありました。そのことで、日本語で話すよりも難しさを感じた方がいたかもしれませんが、アンケート結果からは、達成度が良好でした。学習目標としてはなんとなく到達していない感じを抱いた人もいたかもしれませんが、達成感を得られた部分もあり、国際看護や文化的ケアについて、しっかりと取り組んでもらったと思えます。</p>
2118	看護学群	救急・災害看護論	<p>本科目の回答平均値は、大学全講義の平均値に比べると全項目で下回る結果となった。昨年度の授業運営へのコメントをふまえて、今年度の事後課題の提示方法をMicrosoft Formsの課題機能を利用することで、提出忘れの学生が減少した。また、例年と同様に、臨床現場での実践家である救急看護認定看護師を東北大学病院と置賜総合病院からゲスト講師として招聘し、救急看護の専門性を教授することを目指した。自由記述の内容を確認すると、外部ゲスト講師の講義内容が好評であり、4年次の国家試験を控えた学生たちにとって適切な難易度で臨床現場の実際に即した救急看護・救急医療を学ぶことができたと考えられる。例年と同様に、今年度の心肺蘇生演習はシミュレーター人形を用いて、心臓圧迫・人工呼吸の程度を可視化させながら演習を行った。また、トリアージ演習を実際のトリアージシートを用いて行った。アンケート結果からも演習での取り組みが効果的であったことが伺える。</p> <p>一方で、その他の意見として、「最終レポート課題の負担が大きい」という意見が挙げられた。これは、学生が「知識や技術の習得・知的関心の喚起(28,277点)」や「学生自身の授業目標到達度(28,255点)」を一定程度評価しているものの、最終的な提出課題の量や難易度が負担感につながっている可能性を示唆していることが考えられる。次年度は以下の点を改善し、学習効果を維持しつつ、負担を最適化することで、授業外学習時間の増加にもつなげたい。最終レポートについて、分量や求められる内容を検討し、学習目標達成に必要な水準に負担を最適化する。また、授業計画の冒頭で、レポート作成に必要な下調べや、復習にかかる時間の目安を明確に提示し、「授業計画のわかりやすさ」の向上を図る。</p>
2119	看護学群	看護技術各論Ⅱ	<p>・授業評価はすべての項目で全授業の平均値よりも高く、概ね良好な評価だったと思えます。説明のわかりやすさ、授業の単元ごとの組み立てがよくなった点として書かれてありました。これらの内容は継続し、知識の定着につながるような授業運営につなげていきます。</p> <p>・電子教科書の使用については教員間で検討していきます。</p>
2120	看護学群	看護技術各論Ⅲ	<p>本科目の授業評価は、回答された項目全てにおいて全授業平均より大きく上回った結果であり、全体を通して良好な授業運営であったと考える。さらに、昨年度の同科目の授業評価に比べて、全ての項目でポイントが増加していた。これらについては、「単元ごとにまとまってわかりやすかった」「資料が分かりやすかった」「資料が分かりやすかった」などの自由回答の記述からもわかるように、こちらの授業計画の主旨が十分に伝わっていたことや、これまでの授業評価をふまえて授業運営を改善したことが要因あると考えられる。「改善した方がよい点」には電子教科書の不便さについての記載が1件あった。次年度もこれまでの結果を参考に、履修学生の学びの質が高まるように授業内容の改善を検討し、工夫して実施していく。特に、単元ごとに実施する「小テスト」は、それぞれの要点が理解できているか確認することを目的とした取り組みであり、関係する看護技術各論演習Ⅲの学習とも関係していくことであるため、次年度も継続していく。</p>
2121	看護学群	看護技術各論演習Ⅱ	<p>・授業評価はすべての項目で全授業の平均値よりも高く、前年度と比較しても全体の評価が高くなっていました。看護技術各論演習Ⅱでは診療の補助技術に関する内容が含まれ、学生の緊張が高くなる場面もあり、安全面での配慮は授業運営において重視しているものです。その点についてよかったですと評価されており、学生も安心して授業に参加できていたと評価できると思えます。</p> <p>・改善した方がよい点として、タイムな演習スケジュールと、事例について話し合う時間の確保についての意見がありました。今年度からは技術のタスクトレーニングだけではなく、強化が求められる臨床推論能力をシミュレーション学習を通して獲得してほしいとのねらいで授業計画を考えました。臨床推論はこれまで学んできた知識の修得を前提としていますので、事前課題の方法を工夫し、授業時間内で十分なディスカッションができるように計画しています。そのため、学生の皆さんにはこの科目の事前事後学習だけではなく、すべての科目においてしっかりと知識を定着させることを意識して学習に取り組んでほしいと思えます。</p>
2122	看護学群	看護技術各論演習Ⅲ	<p>本科目は「看護技術各論Ⅲ」とのつながりがあり、時間割設定として「看護技術各論Ⅱ」「看護技術各論演習Ⅲ」とも同日であるため、演習の多さに関する自由回答があったように、スケジュールのタイトさや学習の負担感も多少はあったかもしれない。しかしながら、本科目の学習内容は回答された項目全てにおいて全授業平均より大きく上回った結果であり、昨年度の同科目の授業評価に比べて全ての項目でポイントが増加していたことから、全体を通して良好な授業運営であったと考える。事前事後学習にあって学習時間とほぼ同数であった。今年度は昨年度の授業評価を受けて、教員間の情報共有および連携、安全管理の徹底について密に調整・連携を図ることができた。このことは授業に関する良かったこととしての意見としても反映されていた。次年度も、学習目標に応じた計画的な授業運営ができるように、授業に関する情報提供の時期や方法、グループ学習でのねらいなどについて、整理・検討していく。</p>
2123	看護学群	母性看護援助論Ⅱ	<p>母性看護援助論Ⅱは、産褥期・新生児期における母子と家族の健康課題と援助について学ぶ科目でした。ほぼ全ての項目で平均値を上回り、特に「授業マナー遵守への配慮」「知識や技術の習得・知的関心の喚起」「教材と説明の適切さ」「授業の要点・内容の整理」の相対値が高かったです。この科目では特に「知識・技術」のDPに重きを置いていますので、そのねらい通りに皆さんが学ぶことができたことを大変嬉しく思っています。</p> <p>自由記述回答からも、「講義資料が見やすく、講義も分かりやすかった」など、授業の資料・説明に対する満足度が高いことがうかがえました。後半4回は、4年次の先輩方がサポーターとして加わり、演習（看護過程・妊婦の看護・褥瘡の看護・新生児の看護）を行いました。これに関しても「演習では、基本的な技術を先生や先輩からアドバイスをもらいながら取り組むことができたので良かった」「演習での上級生からの見本や助言を含めた指導が分かりやすく、実践的で演習に取り組むやすかった」など肯定的な意見を頂きました。以上のように、当科目に対して全体的に高い評価を得たことから、次年度も今年度の内容を踏襲する形で行いたいと思えます。</p> <p>一方、改善を要する点として、「看護過程演習の時間が足りない」とことや、「ラボでの演習があったが、授業後に個人的に練習したかった。ラボを開放してほしい」というお声も頂きました。また、「授業外の学習時間」は、調査対象全科目の平均時間や、前年度の同科目の平均時間よりも減少していました。これらの点を参考に、より学習効果が上がる方策を検討してまいります。貴重なご意見をありがとうございました。</p>

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
2124	看護学群	小児看護援助論Ⅱ	筆記試験の正答率が高く、皆さんが試験に向けて学修内容をよく復習した様子が伝わりました。 講義資料、講義内容について、「講義資料が見やすい」「講義が分かりやすい」と評価をいただきました。これからの内容の検討を重ね、学生のみなさんが小児看護学への興味関心を高め、知識の獲得につながるような工夫をしていきたいと考えています。
2125	看護学群	成人看護援助論Ⅰ	全員が出席が少なく、熱心に学修でき、目標を到達しました。科目構成とワークは、目標達成につながっていたと考えます。 授業評価アンケートでは、「例を出して説明してくれたことでイメージしやすかった。」との意見があり、臨床における専門的な看護の理解において、2年生がわかりやすい説明や、動画等を取り入れるよう工夫していきます。また、「関連図の書き方はもっと詳しく教えてほしい」との意見があり、人の全体を理解する方法として、身体面、心理面、社会面の情報の関連づけてアセスメントするワークへ関心を持ってもらえたいと思います。関連図を用いて人の全体を理解することが、看護援助にどのようにつながるかが、わかるように授業の組み立てを検討します。 事前事後学修時間は、授業評価アンケートでは、1時間程度でしたが、もっと多くの時間を費やしている学生も多かったかと思えます。また、同時期に開講している看護技術各論等と関連づけて、効率的で有効な事前事後学修になるよう工夫したいと思えます。
2130	看護学群	成人看護援助論Ⅲ	授業評価への回答ありがとうございます。 「成人看護援助論Ⅲ」は領域実習前の必修科目として基本から実践的な内容まで網羅するよう努めています。そのため、学生自身がこれまでの学習内容を統合して受講する必要がある、難度が高いと感じた学生も多かったようです。だからこそ、授業時間中は本科目に集中して受講することをお勧めします。 また、同時期開講の必修科目「成人看護援助論Ⅱ」と意図的に連動させているため、どちらの授業が混乱したという感想ももらいました。慢性期看護でも必要な基盤となる知識については、時間配分の都合でどちらかで説明したり、重要なことは両方で説明したりしました。したがって、どちらの科目の話が分からなくなることは本質的な問題ではないと捉えています。この点について、次年度はオリエンテーションでお伝えするようにします。 さらに、講義資料についても意見をもらいました。資料は毎年更新しており、引き続き改善に努めてまいります。一方で、皆さんにもわかってほしいことがあります。できるだけわかりやすい資料を作ること、わかりやすく伝えることを心がけていますが、他者から伝達された知識がその場でわかることだけが重要なものではありません。現に、単元ごとの理解度は4.2点以上/5点満点を維持しましたが、最終的な科目の目標到達評価とは一致しませんでした。この科目が知識に基づく思考のために役立つことを願い、改善を続けてまいります。
2131	看護学群	老年看護援助論Ⅰ	全ての項目で高評価でした、学生が熱心に取り組んでいたため、習得度が高かったと思えます。体験型学習が多いことについて高評価でした。引き続き体験学習のスタイルを取り入れていきたいと思えます。 聞き書きの講義と実践について、良い評価を得た一方で負担感のコメントがありました。高齢者を理解するために大きな意味を持つワークのため、引き続き実施したいと思えます。身近に高齢者がいない学生への配慮を工夫していきます。 ラボでの演習が慌ただしくなってしまった点については、演習の組み方を変更して改善します。
2132	看護学群	老年看護援助論Ⅱ	学生の皆さんから、「紙上事例のアセスメントがExcelだとやりにくかった」「テスト期間中に演習を設けなくて欲しい」「他の科目より早めに試験を行ったことで余裕を作ることができた」「臨床での経験についてもたくさん聞くことができ良かった」等のご意見をいただきました。 Excelの使いにくさについては、以前よりご意見をいただいております。今年度はwordファイルも用意しアナウンスもしていました。ただ、事例はExcelにしか記載されておらず、wordを使用する際はExcelの事例をコピーして使用しないといけなかったため、ひと手間かかることがword利用に至らなかったのかと推察します。wordファイルも使いやすいよう準備をしたいと思えます。 「テスト期間中に演習を設けなくて欲しい」や「課題の提出が他の授業のテストに被って大変だった」というご意見がありました。効果的な授業の流れを検討し、今年度は筆記テストを早めに実施し、演習を最後に実施しました。皆さんは、多数の科目を履修されているので、その全ての内容を考慮した授業構成にすることは困難ではありますが、皆さんにとって、より負担が少なくなかつ目標達成できるような授業内容と構成を検討したいと思います。
2133	看護学群	精神看護援助論Ⅱ	精神看護援助論Ⅱは、精神疾患を抱える患者理解と看護展開について学ぶ科目でした。当科目では、全ての項目について全授業の平均値を上回っており、皆さんが関心をもって当科目に取り組んだことが見て取れました。 今年度は看護展開の実践について前年度より多くの時間を演習に使い、個人作業とグループワークという2段階で展開しました。その方法については、「難易・進度の適切性」が平均を上回っており、自由記述でも「意見交換や共有の時間が十分に確保されていた」「演習の講義では1つ1つの記録用紙について丁寧に説明して下さったのが良かった。」「毎週1つの形式についてを進めていくことで、どのように書いていけばよいか非常にわかりやすかったです。」「事例やグループワークを通して看護過程を学ぶことが出来たことが良かったです。分からないことがあっても同じ事例に取り組む友達がいることで、すぐに相談出来たし、学びもより深まりました。」というコメントが寄せられたので、皆さんの学習の助けになっていたということがわかりました。 また、前年度の「記録用紙に手書きだと演習時間内に終わらせることが難しい」という意見を受け、今回の演習はWordファイルをダウンロードして各自のPCで打ち込みやりに変更しました。また、授業時間内にグループで話し合いながら記録用紙を書く時間を確保しました。その結果、授業外の学習時間はほぼ全授業の平均程度でしたので、皆さんへの過度な負担にはなっていないと評価しました。 ただ、演習では記録用紙がWordファイルで自由に量を増やせるため、たくさんスペースを使って記載した方もいましたが、実習では手書きで記録用紙を書くので、簡潔に書くのに苦労している様子も見られました。皆さんが適切な記録量でまとめることを演習の段階でも覚えられるように、授業で工夫していきたいと思えます。
2134	看護学群	地域看護援助論	この度の授業評価アンケート検証の結果、総合評価はおおむね学年平均より高かったものの、以下の2点について改善が必要と判断しました。 ①学生の自己学習時間が基準時間に達していない。 ②演習担当教員の指示のばらつき。 この課題に対応するため、以下の改善計画を立案します。 ①自己学習時間の定着:授業内で明確な予習・復習の課題を提示し、小テストや課題提出といった仕組みを導入することで、学生の自律的な学習を促します。 ②演習担当教員の連携強化:演習担当教員との事前調整を徹底し、指導内容・方針性の統一化を図ります。
2135	看護学群	看護マネジメントⅠ	本科目では、看護管理の基本的原則や理論を押さえつつ、履修生にとって「管理」という概念や機能をより身近なものとして捉えられるような内容構成や配置にしている。 また「看護マネジメント実習」との連続性を考慮して教科書も指定し、実習の準備につながる演習も取り入れている。 授業評価のコメントでも演習を評価する意見もあり、学修効果が得られていると評価する。 評価レポートが細分化されているが、提出状況等は良好であった。
2136	看護学群	看護マネジメントⅡ	本科目は、看護学群の最終学年として、今後の自分の専門職としてのあり様のように向き合うべきかを考え、その考えを言語化していくことに主眼を置いている科目である。 評価も到達目標に対応したレポート課題と毎回の授業内容に関する各自の思考を表現することによるものにしており、特に毎回の事後課題の共有は学生の思考の拡張や看護観の形成、組織社会化の第一歩として役立つと考える。 自由記述としての意見はなかったが、授業外の学習時間が全額平均よりも長いことから、熟練しながら毎回の授業に臨んでいることがうかがえた。 授業評価アンケートでは、授業計画のわかりやすさ、到達できる内容の設定や難易度・進度が全授業の平均値を上回っており、おおよそ皆さんが、学修目標に到達できたと思える学びが得られていたと思えます。特に外部講師からの講義では、実践に即した看護や援助・支援についてのお話がありましたが、レスポンスにも皆さん自身のこれまでの体験や、考えなどを振り返っての大事な気づきが多く記載されていました。これからも、これまで学んできた知識に、他者との関わりや考えを知ること、様々な価値に気づいたり、意味づけを加える学習を積み重ねてもらえればと思います。また、本科目は、授業マナー遵守への配慮の得点が全学平均よりもやや飛び抜けて高くなりましたが、授業マナー遵守への協力もありがとうございます。授業の時から意識している皆さんは、現場に出ても周囲への配慮の姿勢が違ってくると思います。これからの皆さんの意見を聞きながら、これからの皆さんに必要とされる資質や能力が身に付けられるよう、学習環境や内容を検討したいと思います。
2138	看護学群	緩和ケア論	2025年度から選択科目1単位科目になった。昨年度までの必修科目2単位を凝縮する形式で、基本的な知識を含めた授業であった。しかし、緩和ケアに関心があり選択する学生のニーズや学修の準備状態をふまえて、内容をブラッシュアップする必要があると分かった。来年度の目標と内容を再検討する。 本科目は今年度初めて開講した授業でした。クリティカルケアに関心のある学生さんの選択科目であり、皆さんのモチベーションの高さを感じながら授業をしていました。特にCNSの方とのディスカッションは皆さんの満足度が高いレスポンスを頂いていました。具体的にご意見はいただきませんでした。皆さんの評価は全学平均と同等のものでした。総合実習をかなり意識して授業日程と内容を調整しましたが、保健師課程を選択している学生さんは臨床実習との重複日程になってしまい調整つけられなかったことは大きな課題と認識しています。また、シミュレーション教材も最新のリアリティあるものに改編しながら、皆さんの学習上の興味関心にこたえられるようにしたいと考えています。
2139	看護学群	クリティカルケア論	本科目は今年度初めて開講した授業でした。クリティカルケアに関心のある学生さんの選択科目であり、皆さんのモチベーションの高さを感じながら授業をしていました。特にCNSの方とのディスカッションは皆さんの満足度が高いレスポンスを頂いていました。具体的にご意見はいただきませんでした。皆さんの評価は全学平均と同等のものでした。総合実習をかなり意識して授業日程と内容を調整しましたが、保健師課程を選択している学生さんは臨床実習との重複日程になってしまい調整つけられなかったことは大きな課題と認識しています。また、シミュレーション教材も最新のリアリティあるものに改編しながら、皆さんの学習上の興味関心にこたえられるようにしたいと考えています。
2140	看護学群	公衆衛生看護援助論Ⅰ	全体的には、非常に良い回答結果であったため、今後も同様の講義運営を心掛けていきたいと考える。事前・事後学習については、全体平均よりも低い状況であることから、前後で1時間は学習時間を設けるように課題等を工夫していきたいと考える。
2141	看護学群	公衆衛生看護援助論Ⅱ	本科目は全体的には良い回答を得ることができた。また、到達目標を達成するために外部講師の活用や演習を取り入れるなどの工夫の成果であると考えている。事前・事後学習が全体平均と比較するとやや少ない傾向が見られるため、課題などを工夫することにより事前・事後の学習時間を確保するようにしたい。

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
2142	看護学群	公衆衛生看護活動論Ⅰ	総合評価は全学平均より高かったものの、「知識や技術の習得・知的関心の喚起」の項目が全学平均値を下回った。また、自己学習時間も基準に達していなかった。この2点を重点課題とする。 改善計画として、知的関心の喚起は、授業内で学生の興味を惹く最新事例や社会的なトピックを取り入れ、学習内容の実用性を示し、ディスカッションなどを増やすことにより能動的な学習を促す。 また、自己学習時間の確保としては、課題の難易度と分量を適切に調整し、学生が無理なく取り組めるようにする。 これらの改善策を実施していくものとする。
2143	看護学群	公衆衛生看護活動論Ⅱ	全体的には、次年度も同様の形式で実施する予定である。健康教育に特化した科目で自分たちで作り上げていくことが求められる。モチベーションが維持出来るように、グループ間での共有の機会を増やす等を検討する。
2145	看護学群	公衆衛生看護マネジメント	今年度より開講した科目であり、学生からの評価は概ね肯定的な評価であったと考える。また、学修到達度も適当であると判断しており、次年度の授業全体の構成は、変更せずに継続する予定である。
2146	看護学群	健康相談活動	授業日変更の早期周知、到達目標に沿った授業内容などについて改善を行う。
2147	看護学群	教職論	授業内容に難しさを感じた学生が多く見られたが、議論を中心とした学びの成果は十分に現れている。事前学習の時間が学修成果につながっているため、次年度は反転授業を始めとして一定程度の知識理解の前提、基準を明確に示すことにしたい。
2148	看護学群	教育学概論	教育学のスタート科目として今年度は、テキストとして神代健彦・後藤篤・横井夏子『これからの教育学』（2023）を活用した。 今年度もテキストによる講義を基本としたが、その課題に十分に対応する学習成果が見られた。その要因としては、毎回行う授業の小レポートに向けて、受講者が意識的に取り組んだ事前事後学修の成果によるものであったといえる。 今後も教職課程コアカリキュラムに基づきながら、到達目標を再検討していく予定である。
2149	看護学群	教育心理学	授業計画のわかりやすさ、授業の要点・内容の整理、教材・説明の適切さ、目標到達できる内容、難易・進度の適切性、知識や技術の習得・知的関心の喚起については、全授業の平均値よりも大きく上回っており、全体としては今後も同じ授業を継続していくこととする。
2150	看護学群	教育の方法	アンケートの結果では多くの項目において、全授業の平均値よりも下回っていた。これは、看護学実習を終え、養護実習や教員採用試験の準備、看護とは異なる点も多い配慮といった学校教育への対応など、急に学びの方向性が変わったことに対する学生の戸惑いを反映しているものと考えられる。今後はこうした学生の状況や興味・関心に十分配慮しながら授業を進めていくこととする。なお、この講義で行っている指導案作成・改訂については、あくまで「教育の方法」という講義の趣旨の範囲内で行っているものであること、また指導案の作成は教員の永遠の課題であり、不漸の評価・改善へ向け、自己点検できるようになること。まずは現場の先生方からの意見を積極的に取り入れて改善へつなげていくこと、などについて、よく説明することにした。
2152	看護学群	道徳、特別活動及び総合	非常勤講師、現職教諭（ゲスト講師）による講義と活動、理論研究をベースにした非常勤講師（大学教員）の講義、両者を総合する特任教授の講義である。ゲスト講師の講義への関心が強かったことはうかがえるものの、講義全体についての理解度は十分ではなかった。次年度は、事前事後学修の必要についての周知を徹底する。

令和7年度前期授業改善計画（事業構想学群）

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
3101	事業構想学群	事業構想学概論	・講義で話す内容が多く、理解しきれていない者も多いようであるため、次年度はテキストも用意するようにしたいと思っている。また、学生間での話し合いの時間やノートに書く時間を取り入れてみたが、次年度はもう少し増やしていきたい。 授業評価アンケートでは全項目で全授業平均を上回る評価が示され、特に「目標到達できる内容」「授業の要点・内容の整理」の項目で高い評価であった。自由記述では「毎講義で様々なツールを紹介いただき、日常でのデータ分析の活用場面を学べた」「講義資料が見やすかった」「Excelの使い方が自然と身についた」という肯定的なフィードバックをいただいた。改善点の指摘は特になかったが、授業外学習時間が全学平均をやや下回っているため、事前・事後学習の課題をより具体的に提示し、自主学習を促進する工夫を継続して行っていく。
3105	事業構想学群	データサイエンス	授業については、ほぼ予定通りの実施で問題なかった。課題の量も適切と評価いただき、内容についても良好であったため引き続き来年度も更なる改良を加えて実施していきたい。
3107	事業構想学群	ビジネスモデル論	本学の前授業の平均値に比べて低いあるいは同等の項目について検討する。「難易・進度の適切性」が、学内平均より低かった。数学IIまで大学入試科目であることも勘案して難易度を調整しているが、復習のノートを充実させるなど検討したい。コメントでは「理解しやすい説明」と書かれている点もあり、進度をより早くすべからば学生の反応を見て検討したい。「知識や技術の習得・知的関心の喚起」も学内平均とあまり変わらなかった。計算モデルが多用される中で、現実の各データなど現実的な内容も織り交ぜるようにしているが、より具体的な企業の現実の行動との関連なども補足するように工夫したい。
3108	事業構想学群	ミクロ経済学	事業プランニング学類の必修であることから、落後者を出さぬよう内容を詰めすぎないようにしている。また、ビジネスに直結する実践的な内容を教えているので、先端の実務を教えられる外部講師への依頼も継続して行いたい。提出されたレポートや授業評価アンケートを見る限り、到達目標は十分達成できていると考えるが、授業中のワークの成果を学生がお互いに確認するようにしたところ、理解がさらに深まったようなので、これを継続したい。
3109	事業構想学群	ビジネスコミュニケーション	本学の前授業の平均値に比べて低いあるいは同等の項目について検討する。「授業計画のわかりやすさ」が、学内平均より少し低かった。シラバス上の表記は簡略化しているので、講義内で各回の概要を冒頭に説明するなど今後は工夫したい。「知識や技術の習得・知的関心の喚起」も学内平均より低かった。どうしても確率算等の数学を用いて理論的に展開する部分が多いので、直感的にどうなっているか、現実の事象に照らし合わせてどうなっているかなど、補足するように工夫したい。
3112	事業構想学群	ゲーム理論	本科目は地域創生学類における唯一の必修科目であり、学生の学修進度に応じた丁寧な講義設計がなされている。本科目では、まず地域創生に関する全体像を把握し、その後、専門科目の履修へと進む流れを見据えたオムニバス形式での講義が実施されている。一方、地域学という学問体系は未だ確立されていない。本学類では、独自に実学としての地域学の体系化を進めており、本科目の講義設計もその方針に沿っている。今後は、講義内容をテキスト化し、事前・事後学修を充実させるとともに、その後の地域実践へ円滑につながるための準備を進める。これにより、学生が理論と実践を往還しながら地域創生に関する深い理解を獲得できるための基礎を確実に習得できるよう更なる科目改善を図る。
3113	事業構想学群	地域学	・授業内容の難易度の調整を継続的に実施しているが、結果として成績や授業評価での自己の到達度評価の結果は向上しており、概ね適切に調整がなされていると考えている。引き続き、学生が楽しく学べることを重視してコンテンツ及び課題の改善を進めていく。 ・期末試験成績に基づく学修理解度も昨年度に比べて向上しており、また成績分布も優を中心とした分布を保持できている。学生の理解度は良好な状況にある。授業評価の自由意見では「課題が多い」「課題が難しい」との意見もあり、今後も授業・課題の難易度調整を継続していく。 ・授業評価の自由意見では、授業内容に関して「課題大変だったけど、面白かったです！」「課題を通して、初めて使用するアプリがあったり、今後のAIに対してなど考えたりすることが多く、多くのことを学べた」「スクラッチやスケッチアップなどを使用できらようになったところが良かった。情報について深く広く知ることができ、これからの社会で活かせると思った」などと肯定的な意見が多くみられ、学生の興味喚起につながっていることがわかる。今後も最新の話題を提供しながら講義を進めることができるよう工夫を進めていきたい。また、ソフトウェアの操作方法の説明不足や単元毎に何を学ぶのかより明確にして欲しい等のコメントもあり、これらの意見も参考に改善を図りたい。
3114	事業構想学群	情報と環境	配布資料や事前・事後学修について高評価を得ました。「各回の授業と内容のつながりを感じられる授業で、非常に分かりやすかった」「様々な事例を通して都市計画について学ぶことができ良かった」などの評価も得ており、引き続き皆さんにとって充実した学びとなるよう、講義を実施します。
3119	事業構想学群	都市と文化	自由記述のコメントは二つあった。 - PMBOKの内容について網羅的に学ぶことができた PMBOKの第7版は内容がスラスカなので第6版に基づいて説明をした。2025年11月に第8版が出た。来年度は第8版に基づいて説明をする。 - 自身の書いた論文を添削していただいたことでどこがダメなのか、どのように書くのが正解なのかを知ることができてよかった。 肯定的な評価を頂いて嬉しい。来年度もレポートの添削は時間をかけて行う。
3122	事業構想学群	プロジェクトマネジメント	2025年度の「ビジネスと情報」では、学生から「最新のAIツールを実際に使えてよかった」「先生の個別フィードバックがとても役立つ」「ビジネスのマナーや提案の仕方まで学べた」「毎回のFBが楽しかった」「全員の名前と顔を覚えてくれていたのが嬉しかった」など、多くの温かい声をもらいました。AIの使い方でなく、ビジネスの豆知識や実務的な考え方を学べたという意見も多く、授業そのものを「一番おもしろかった」と言ってくれた学生もいました。 今年AIの進化が一段と速くなり、授業だけですべてをカバーしきれないため、Teamsのチャネルを使って最新情報を共有する取り組みを強化しました。授業では「AIの基礎や仕組みを理解し、自分でアウトプットをつくること」に集中し、学生が学びやすい形を目指しました。一方で、最新情報の紹介とグループワークの時間配分には引き続き悩む部分があり、後期のeビジネスではワーク時間を増やす方向で調整しています。 また、学生から「こんなに一人一人を見てくれる先生いないです」と言われたことは私にとって大きな励みでした。提出物だけでなく、どの学生がどこで困っているか、どんな強みが見えてきているかを丁寧に見たいと思い、少し「おせっかい」かもしれませんが、これからも大切にしたい姿勢です。 一方で、反省点としてAI倫理の扱いが薄くなってしまったことがあります。AIの著しい進化があり、そのすぐさや実務での応用を紹介することになった結果、著作権の扱いなど、今まさに社会で問題視されている部分に触れる時間が少なくなりました。今後さらに重要になるため、このバランスを考え、来年度は前期の基礎編にAI倫理をしっかり組み込んでいきます。 また、チーム内の意識差に関する悩みもあり、Teams内に各グループの専用チャネルを復活し、連絡が平等に行えるようにする改善も検討します。 2026年度は、前期は「AIの基礎・仕組みの理解とアウトプットづくり」、後期は「AIを使ったビジネス案の構築」という流れをより明確にし、学生から評価が高かった部分を大切にしつつ、さらなる改善に力を入れていきます。
3123	事業構想学群	ビジネスと情報	本年度は5名のゲスト講師（企業の人事担当者）の協力を得て、理論の実践展開を想定した授業を実施した。次年度以降も講義内容、授業運営、評価方法について、基本的な変更は予定していない。最新の理論、研究、事象、事例、教育メソッドを積極的に導入することで、大学生に対して本来求められる「知的好奇心」を喚起し、修学意欲（モチベーション）を高水準に持続させ、学生自身が主体的な学習行動を選択することを目的とする真摯な授業実施・展開を予定する。学習成果を最大限にするため、授業の阻害原因についての除去を徹底する。定期的に「受講規程」「レポート提出規程」「参考文献引用規程」「参考文献表記規程」を徹底し、「評価方法」「評価基準」を再確認させることで説明責任を果たす。学問への取り組みの成果である「学習メカニズム」構築、3年後期以降の「キャリア形成」における主体的行動に対する十分な有効性を担保させる展開を意図する。本年度も「事前に、次の授業内容について熟読して、疑問点を明確にして記述する。」「事後に、主要理論と主要概念を整理するとともに、疑問点が解消されたのかを確認する。」を受講生に周知し一定水準を達成したが、より深化が求められることを意識する。本授業では、大学における専門科目として正しく認識させて、不見識な態度、欠席、低クオリティ・レポート、日本語表現能力の欠落など、学問に対して真摯に取り組むことへの逆機能、阻害原因について一貫した対応をしてきた。これについては継続実施する。「学問」に対して「テキストを学ぶ」ではなく「テキストで学ぶ」を周知し、事前学習の実行を指示したにもかかわらず、少数の学生が認識していないことを確認した。次年度以降、そのような学生に対して、本人のみならず所属研究室の教員とも情報提供して積極的に協力を仰ぐことで、大学の専門科目としての質的担保を維持し、これからのキャリア形成の具体的な支援の指針となる展開を考え、実行していきたい。
3128	事業構想学群	人的資源管理論	前年の指摘事項で、出席して学修に取り組む学生と、そうではない学生がいるとの点に関して、それぞれの学生の評価を適正にするようとりくんだほか、今年度の指摘にあるスライドの切り替え速度についてはより丁寧に行う予定としたい。
3131	事業構想学群	行政学	

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
3134	事業構想学群	レジリエンスとビジネス	・履修者によるアンケート結果から楽しく学んでいる状況を見て取ることができ、授業内容については概ね良好であったと考えられる。一方、ビジネスアイデアを発表して終わっていることから、より実践的なビジネスを学べるよう講義内容を改善して参りたい。 ・本講義は、講義2回分については外部講師による講義を行っており、専門性の高い理論を取り入れた構成としている。このため、ビジネスについて論理的に理解を深めることができ、学生による評価に繋がったものと考えられる。
3136	事業構想学群	非営利経営論	・グループワークや外部講師の話は評価が高い一方、知識や技術をさらに学べるよう改善していきたい。 ・時間外学習時間の量と質の向上を目指し、予習/復習課題を課すことを検討する。特に本年度から教材として用いているテキストには意思決定を考えるケーススタディなども収録されているため、来期以降はさらに充実した時間外学習の仕掛けを作りたい。
3137	事業構想学群	グローバル共生論	本講義では、JICAとの連携科目でもあり、広くグローバルかつローカルに「多文化共生」の取組を学びきっかけを生み出すことができた。学生たちが普段あまりなじみのない世界各国や日本国内での現場の取組や議論、さらに合意形成プロセスなどを深く聞くことができ、満足度が高い結果になったと考えられる。昨年度に比べると受講生がやや減少したが、受講した学生たちからは、「自分の将来の選択肢の幅が広がった」や「他の講義と関連付けて考えられることも多く視野が広がった」などのコメントをいただき、今後もグローバルをテーマとした学びを深めるための講義を心がけていきたい。
3138	事業構想学群	地域復興デザイン	・履修者によるアンケート結果から後半の演習に課題があることを見て取ることができる。前半の講義内容と後半の演習へのつなぎ方を改善することが考えられる。 ・本講義は、講義2回分についてはゲストスピーカーによる講義とし、津波被害を受けた地域の復興に取り組んだ方々の実経験を学習している。こうした経験の先にある、地域復興のまちづくりについて学習できるよう、復興のあり方を再検証し、講義に反映させていく必要があるものと考えられる。
3139	事業構想学群	交通計画	・講義で話す内容が多く、理解しきれていない者も多いようであるため、次年度は部分的にでもテキストも用意するようにしたいと思っている。また、学生への問いかけや学生間での話し合いの時間などについても、次年度はもう少し増やしていきたい。
3141	事業構想学群	災害の科学（水）	【改善した方がよい点】 課題が多いと感じたとする意見があったが、事前・事後学習の時間をみるとそうではないと思われる。 今後は、計算問題のほかに、中間での課題を課すことも検討したい。
3143	事業構想学群	地域産業政策	今年度は、専任教員の退職に伴い、特任教員による講義を実施した。講義内容については、従来通り学外演習を取り入れ、地元企業3社との連携による実践的な学びを展開した。次年度においても、地域企業との協働を継続し、実践的な講義をさらに充実させる。これにより、到達目標の確実な達成を図るとともに、宮城県の産業政策に関する理解を深め、地域産業に貢献できる人材育成を目指す。
3144	事業構想学群	地域医療福祉政策論	授業については、ほぼ予定通りの実施で問題なかった。課題の量も適切と評価いただき、内容についても良好であったため引き続き来年度も更なる改良を加えて実施していきたい。
3145	事業構想学群	地域環境計測（測量）	受講者が多すぎて手持ち無沙汰になる学生が多かった。実習中先生がもう一人いてほしかった。という意見があった。 十分に測量機器に触れる機会を提供して理解を深める講義を行うために、履修制限などを検討する。
3146	事業構想学群	地理情報分析	【この授業に関して、良かった点】 ・学生の様子をよく見ながら授業を進めてくれた ・情報やデータから自分が知りたいと思うオリジナルの地図の作り方を知れた。 → 演習部分では作業進度に個人差が出がちであるため、全体を確認しつつ、進度に配慮していきたいと思います。 【改善したほうがよい点】 ・演習テストが終わった後、復習のためにも手順や手法を教えてほしい。 → 講義時間の関係から、なかなか復習に時間を割くことが難しいですが、講義動画を残しているため、今後、そちらを参照するように伝えたいと思います。 【その他、意見、感想、要望など】 ・GISを使いこなすのが難しかった。 → 慣れのところもあり、なかなか難しい部分はありますが、スキルアップを実感できるような講義・演習の工夫をしてきたいと思います。
3148	事業構想学群	災害の科学（土）	公務員試験にも出る問題を解説していただけて勉強になった。スライドが簡潔にまとめられていて見やすかった。5限の授業なので、終わりの時間までにはしっかり終わってほしかった。などのコメントをもらった。社会科学系の受講生が多いので今後もより丁寧な説明、講義資料の改善をしていきたい。データサイエンスを意識した講義にしたい。私も非常勤講師も講義時間内に終わるようにします。
3149	事業構想学群	社会起業論	社会起業における課題は変化しており、本講義では、宮城県内の各種起業・創業プランで受賞した起業家をゲスト講師として招き、実際の課題解決に即した内容を取り入れている。この取り組みは、学生に現場のリアルな視点を提供する重要な要素であり、次年度も継続して実施する。 さらに、次年度は基礎的な知識の増強に加えて、ゲスト講師とのディスカッションやワークショップを強化し、学生が主体的に課題解決に取り組む機会を増やすことで、実践力と地域社会への理解を深めることを目指す。
3150	事業構想学群	防災計画	授業評価アンケートへのご協力ありがとうございました。 【自由記載：良かった点】（抜粋） ・グループワークが多く、様々な考え方を共有し、理解を深めることが出来た。 ・災害が起きた時を想定した考え方が身についた。 災害の発生条件によって異なる状況が想定される災害対応について理解を深めるため、グループディスカッションやケースを用いた講義設計とした。次年度もそのような機会を多く設ける。
3155	事業構想学群	感性情報デザイン演習I	（概要）価値創造デザイン学類で学ぶための基礎体力として、デザインを表現するためのプログラミング演習を行った。ミニゲーム制作を通して、デザイン企画力、表現力、技術や知識を身に付けるものである。デザイン現場での実務経験がある教員特性を活かした授業運営ができたと考える。 （授業内容・進め方改善）授業評価アンケートから、一定の評価があったものとする。丁寧なステップを踏んだ解説と、ゆっくり目な進行、知識のインプットと技術のアウトプットをセットにした演習内容など、価値創造デザイン学類の学生気質にあった演習ができたとする。演習で扱うべき内容については概ね問題ないとするが、他の先生方も相談のうえ、さらなる改善を行う。 （学生へのフィードバック改善）丁寧なフィードバックが学生自身の学びにつながることは授業評価アンケートから読み取れる。必要性はあるものの負担が高いことから、効果的かつ継続可能なフィードバック方法を検討し改善を行う。 （プレゼンテーション機会改善）ランダムな組み合わせによるグループプレゼンテーションを実施し、履修者全員にプレゼンテーションと評価の機会を作ることができた。学生同士で評価しあうことは一定の教育効果があると考えるが、教員に評価してほしいとの意見もあるため、次年度の発表については複数の方法を実施する予定である。 （マナー配慮改善）演習中は学びやすく質問しやすい環境づくりを心掛けた。その反面、自由さが裏目に出てしまい、やや雑然とする時間帯もあったかもしれない。授業進行の妨げになるようなシーンはなかったと考えるが、アンケートではマナー配慮項目について全学平均を下回る結果が出ており、すべての履修生にとって快適な環境であったとはいえない。このことを踏まえ、次年度はより意識してメリハリのある授業運営を行う。
3157	事業構想学群	感性情報デザイン演習III	・今年度は履修学生数が前年度に比べてやや多かったものの、適切な規模での対面演習指導で効果的な指導ができたと考えている。 ・演習での課題設定については、特に前半部分での授業進行及び課題設定を改善したことにより、授業評価においても、授業の難易度や到達度等の項目で昨年度に比べて大幅に上昇する結果となった。授業評価の自由意見でも「内容が楽しい」「教員のフィードバックがもらえた」「サンプルコード等が詳細に解説されて良かった」などの肯定的な意見が複数みられた。今後も適切なレベルでの課題設定に努めていきたい。 ・改善したほうが良い点として、「資料のフォルダ整理をわかりやすくしてほしい」「説明が早い」「最終課題の時間をもっと長くしてほしい」などの意見がみられた。これらの意見も踏まえ、より一層の理解度の向上を目指して授業内容の充実化と教育方法の改善に努めていく。
3159	事業構想学群	コンピュータグラフィクス	・オンライン授業コンテンツと教科書教材の併用することにより、試験成績等から学生の理解度については良好な値が得られている。授業評価の意見でも「教科書だけではなく、外部サイトを参照しながら講義を進めており、理解しやすかった」との意見が示されており、理解度向上の効果はあったと考える。 ・今年度は授業評価の結果は昨年度に比べて良好であるものの、確認テストの試験成績は大きく低下している。教科書を持参せずに授業に参加している学生が多くおり、理解度に大きく影響していたと考えられる。教科書を購入していることを前提に講義資料を作成しており、来年度は教科書を用いた学習を徹底させたい。 ・課題については、自由意見の中で「課題は有意義であったが、時間がかかってしまった」との記載もあり、引き続き課題の量及び難易度の調整を進めていきたい。

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
3160	事業構想学群	ウェブデザイン	<p>(概要) ウェブデザインという、現代のデザインの最先端ともいえる分野を、教室でどのように学ぶことができるか、という視点で授業を行った。グラフィックデザインやコーディング技術に向きがちな科目であるが、社会でのウェブの位置づけ、いったい誰がウェブを利用しているのか、などを学生と考え、教員の実務経験を生かした内容にできたと考える。</p> <p>(授業内容の精緻化) 授業内容を幅広くとったため、知識として学ぶことはできたかもしれないが、より発展的な内容については扱えなかった。専門性の高い授業にするための改善として、授業テーマを絞り精緻化していく。</p> <p>(学生へのフィードバックを強化) 毎回の授業課題とそのフィードバックについては、学生の理解につながるものがアンケートより分かったため、継続する。授業時間外で適切な時間をかけて学修ができ、かつ授業運営上継続可能な課題の方法を検討し改善したい。</p> <p>(プレゼンテーション機会) 履修者全員にプレゼンテーションの機会を作るために、ランダムな組み合わせによるグループ内プレゼンと相互評価を数回実施した。授業後アンケートからはプレゼンテーションに満足している様子がうかがえたが、一方で、学生同士による評価はぶれがあるのではないかと、この意見があった。学生同士の評価が成績にどのように影響するのか明確な説明が必要である。</p> <p>(その他) 授業の出欠確認について指摘があった。Teamsフォーム入力による確認だったが、点呼するなどの方法を検討したい。</p>
3161	事業構想学群	情報構造と可視化	<p>(概要) データ分析、データサイエンスの前段として、情報をどのように扱うか、表現できるのかを修得する講義である。多数の実績がある非常勤講師が担当した。科目担当教員として授業に参加したが、明快かつ知的な内容であった。</p> <p>(授業内容・進め方改善) アンケートでは「教材・説明」「難易・進度適切性」のスコアが全学平均よりも低い結果となった。これは、事前に指定の教科書で学修を済ませておく反転授業的な性質が本講義にあったためと考える。よって改善点があるならば、事前学修に取り組みやすい状況を作る(教科書を読みながら取り組める課題や内容を検討する)などであろう。</p> <p>(ディスカッションとグループワークの継続) アンケートから、ディスカッションとグループワークが効果的であったことが伺える。次年度も継続予定とし、授業計画に組み込みたい。</p> <p>(知識や技術の習得・知的関心の喚起の改善) 全学平均を僅かではあるが下回った項目である。データサイエンスそのものへの関心が影響している可能性もある。本講義が対象とするデータを再検討し、他の科目や演習、プロジェクトとの関わりを持たせるなどして、興味関心を引き上げるためのさらなる改善を試みる。</p>
3162	事業構想学群	情報システムデザイン	<p>授業評価アンケートでは全項目で全授業平均を上回る評価をいただいた。自由記述では「内容について丁寧に説明してくれる」「実際に0からアプリケーションを作成することで、どのような需要に応えるアプリケーションを作成するのか、その手順がとても理解できた」という肯定的なフィードバックをいただいた。改善点の指摘は特になかったが、「授業計画のわかりやすさ」「難易・進度の適切性」の項目が相対的にやや低めであったため、シラバスや各回の授業冒頭で全体の流れと進捗をより明確に示し、学生が見通しを持って学習に取り組めるよう改善を行っていく。</p>
3168	事業構想学群	構造力学Ⅰ	<p>非常勤講師の権代先生による科目でしたが、限られた時間の中で、履修者の皆さんが権代先生と対話しながら授業内容を理解しようと努力したようすがうかがえました。引き続き同様の科目運営がなされるよう、努めます。</p>
3174	事業構想学群	ファシリティマネジメント	<p>アンケートの全項目において当授業の反応値が全授業の平均値に対して極めて劣後していたため、危機感をもって抜本的な授業改善を試みる。特に授業の要点や内容の理解を促すよう、教材とその説明を改善する。また、知的関心を喚起できるよう、最新のトピックを盛り込む。</p>
3175	事業構想学群	サステイナブルデザイン	<p>毎回の小レポートについて、翌週にその内容を振り返る機会を講じました。また、建築士受験に直結する話題や知識を紹介したことも、皆さんの関心の高さにつながったと思われます。引き続き皆さんにとって充実した学びとなるよう、講義を実施します。</p>
3178	事業構想学群	コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習Ⅰ	<p>本講義は「コミュニティプランナープログラム」の一環であり、1年次の地域フィールドワーク、2年次のコミュニティプランナー概論・演習、コミュニティプランナー実践論を経て、最終段階として学生が地域で独自のプログラムを実施する構成となっている。</p> <p>プロジェクトのフィールドやテーマは毎年異なるため、本年度も設定に十分な時間を確保し、計画的に進めた。学生からは「早く現場に入りたい」という意見が毎年寄せられるが、動き出し段階を丁寧に講義することで、後期に実施するコミュニティプランナーFW演習の成果に直結する。</p> <p>次年度においても、専用テキストを活用しながら、学生の主体的なプロジェクト展開に向けて、初動段階に十分な時間を確保する。さらに、プロジェクト実施におけるプロセス理解を深める講義を展開し、計画力と実践力の向上を目指す。</p>

令和7年度前期授業改善計画（食産業学群）

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
4102	食産業学群	食材生産・加工実習Ⅰ	学生ほとんどが食材生産・加工の体験が初めてであるため、興味、関心を持って取り組めたようである。オムニバス科目で、各担当教員から実習の準備等の連絡をすることになっているが、理解不足の学生もいるようなので、担当者間での連絡体制の確認を徹底したい。 ◆生産分野：実習の内容や配布資料、レポート課題を見直し、圃場やハウスでの野菜栽培や家畜の飼養管理等、食材生産の意義や管理の重要性を理解し、生産に関わる知識を身につけられるよう工夫する。また、日本農業技術検定3級レベルが身につけられるような教材を工夫する。 ◆加工分野：加工の意義やレポートの書式に関しては、説明は行っているものの十分に伝わっていないところがあるので、以降は記載すべき内容について明示するようにしたい。
4103	食産業学群	分析基礎実験	到達目標やシラバスは概ね問題ないと考えている。実験内容によっては2コマの枠を超過することがあった。反応時間などの関係でやむを得ないところもあると思うが、今後とも改善したい。
4105	食産業学群	食料・農業・農村政策	受講生からのコメントで「質問に全て丁寧に答えてくれる」「質問に対してしっかり答えてくれるのはやはり授業を受けるモチベーションにつながるのよかったです。これはこうだったからこうなったんじゃないかと振り返るのが楽しかったので、考察しやすい構造になっているのもよいと思います」と評価される一方で「質問回答の時間が長く講義が毎回進まない」「授業で何を伝えたいかわかりにくかった」という評価があります。私の授業は、食料、農業、農村がなぜ現在このような形になっているのか、その課題を考えるために戦後から因果を重点に説明をしています。そうした因果関係がわかることが重要なので質問があれば翌週の授業の最初に説明してからその後の説明にうつることにしてきました。ただし、こうしたものは自分で見てみようと思わなければ見えない。この授業は専門基礎ではありますが、3年生以後の専門に橋渡しを意識しています。質問に丁寧に答えているのは、論理を大切に説明しているからで、それをしっかり理解してもらいたいと思います。もし回答がわかりにくいなら直接質問するのもよいですし、何よりも参考書をしっかり読んでください。最後のテストですが、今回は解答と解説を聞きながら自己採点を行うという形式をとりました。それは間違えたところを自らその場で確認し解説を聞いて自分なりの考察後に点数を付けるということで、テスト以後の学修効果を狙ったものです。コメントをみて驚いたのですが「回答を書き換える」「テストを修正する人がいる」という指摘がありました。3年生になったら専門も決まって点数を上げる必要は無いのですがそうではないようです。実力を伴わない点数には何にも意味をもたない行為なのですが（というより自分を理解できなくなる一生後悔する人間として恥ずかしい行為なのですが）、そうではないことを理解しました。来年からほっと厳格な形で取り締まりを行います。あとテストが簡単であるなどの評価がありましたが、簡単だからといって全ての学生が点数がよいわけではなく、単位取得に相応しい学生も少なくありません。この科目が専門基礎科目であるというその目的性から考えれば現在のテストのレベルが適切かと考えます。
4107	食産業学群	食農素材化学	講義に関する資料情報およびレポート提出日は、講義を担当する教員に注意喚起し、正しい情報を周知するようにします。
4111	食産業学群	植物遺伝育種学	授業評価アンケートへのご協力、ありがとうございました。結果を見たところ、授業目標達成度のスコアが低いことが判明しました。この課題を改善するため、各回の授業内容を整理し、基礎知識から解説するとともに、要点をより分かりやすく説明することを心掛けます。自由記述欄では「毎回の講義の振り返りでは評価を見ることが出来ることで自分の調べ方やまとめ方についても見直すことに驚がり、良い課題であったと思う。」が良かった点として寄せられました。今後も授業ごとにコメントの提出と評価を行うことで、充実した学修となるよう、引き続きプログラムの改善に努めます。
4114	食産業学群	動物遺伝育種学	これまで、学生さんのコメントの要望に応じ、適宜レベルダウンしながら、特に数式をのぞいた平易な説明に務めてきたが、日ごろから自助努力を行っているとは思えない。まずは学生自身が自助努力で勉学に励むべきである。そもそも講義内で1度聞いただけで理解し、覚えることは不可能であり、繰り返しかつ深い考察を日ごろから行うことを期待する。
4119	食産業学群	生産環境情報学	・講義内容の周知 当講義は、基礎から応用（具体例・先進事例）が含まれるため、ガイダンス時（第一回）に授業構成、各担当教員とそれぞれの関連性について明確に示す。 ・講義内容 応用事例に関してAI関連の基礎技術の解説は本講義の本質ではないため、より応用事例の内容を増やし講義を進めたいと考えている。また、生成AIの活用事例や活用方法についても内容に含める予定である。また、授業の要点・内容の整理、学生自身の授業目標到達度の2項目についてスコアが相対的に低いので、見直した上で次年度の講義に反映する。
4120	食産業学群	プログラミング基礎	3名の教員で分担して実施し、複数の言語とソフトウェアを用いた講義形態であった。多角的なプログラミングを学べたと評価はされている。また資料に動画をを用いることによって事前に予習が可能となり、次年度以降積極的に導入していきたい。より高度なプログラミングを学びたいという希望もあり、次年度以降の検討課題とした。
4124	食産業学群	発生遺伝学	授業評価アンケートへのご協力、ありがとうございました。結果を見たところ、授業目標達成度のスコアが低いことが判明しました。この課題を改善するため、各回の授業内容を整理し、基礎知識から解説するとともに、要点をより分かりやすく説明することを心掛けます。また、本授業は基礎科学を扱う科目であり、ケーススタディを用いて直感的に理解するというよりも、生物学の基礎的、理論的な知識を修得することによって、生物の本質を理解し、生物資源として社会に活用することを目指しています。生物の魅力を知り、ひいては自分自身の生物学的特性を理解する重要で興味深い授業ですので、一夜漬けの勉強ではなく、日々の学修を積み重ねていってください。そのために事前・事後学修では、各自が主体的に取り組めるプログラムを導入し、学びの深化を図っていきます。今後も充実した内容となるよう、引き続きプログラムの改善に努めます。
4127	食産業学群	生理学	定期テストの範囲が広くて苦労したという意見があったので、来年は中間試験を設けるか、小テストの回数を増やすなど工夫をしてみる。学生にアンケートを取って、一番よい方法を考える。
4128	食産業学群	食料経済論	質疑のコメントが長すぎるという改善意見が複数あるので質疑のコメントを短くします。質疑が長かったのは、既にテキストが指定され当日の範囲が予習済みと考えて、何を考えるのかという深さを重点的に説明したおところ。他の学生はなぜそれを質問したのかをしっかりと考えることは重要と考えますが、2年生なので進みも重要なので来年度は進みを重点的にすることとします。
4130	食産業学群	フードシステム調査演習	演習授業なので、演習として学生自身が手を動かして実践し、教員はそれをサポートする。全般的に良好な反応で、特に学生自身の「知識・技術・知的関心」が平均よりも高かったことは学修効果があったと考えられる。またコメントに「卒論の際に参考になる方法を学んだ」とあったのはこの授業のねらいの通りであり、他の学生もそのように受け取っていると期待したい。また時間外の学習時間は2時間程度で全学の平均より長く昨年度演習よりも改善されたと考えている。
4131	食産業学群	フードサービス事業運営	・全体に平均を上回る評価を得ていたが、事業者の実際の事業運営に関わる事例を扱うこととしたいと考え、次年度はゲスト講師の回を8回～9回に増やすべく予算申請をしました。
4135	食産業学群	食文化論	大学付近には縄文の杜公園もあるので、縄文時代の食文化を取り上げる際はそういったところを実際行ってみるとかいいのかなと思いました。 → 1コマの時間内に学外で講義を行うことは物理的に難しいですが、可能な範囲で講義内容に合わせた体験や現物に触れる機会を作りたいと思います。
4136	食産業学群	食産業・政策史	本講義は就活期間と全く重なっているため、出席できている学生も連続して受講できる状況ではないのが残念である。ただし少人数講義なので、質疑などアクティブ・ラーニングを積極的にとり入れた授業を行ったものの、4年生科目なのでそれなりに高度な内容も取り入れている。学生ともしっかり質疑を通して理解を確認する必要があるが、あまりアクティブ・ラーニングばかりだと予定通りの進行ができなく悩みどころだ。 大学で歴史を学ぶことの意義は、出来事の羅列や物語にあるのではなく、人と社会を動かす「力」を理解することである。その大きな「力」が理解できるようになることをこの授業では目標としつつ産業としての食を考察している。レポート課題は、ネットなどを調べれば一つのことしか出てこないが、実はそれにはいくつもの考え方があって、自分で考えなければ書けないものを課題することとしている。

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
4138	食産業学群	食品化学	事前・事後学習の設定のほか、適切な分量となるよう改善を図る必要がある。
4139	食産業学群	農産食品学	例年行っている、全員プレゼンテーションの実施は継続的に行っていく。本年度行ったように、科目責任教員が作成した教科書とそれを補足するオンラインツール等を活用し、内容の理解がわかりやすくなるような講義を展開する。
4140	食産業学群	食品衛生学	当該科目は、食品の安全性に関わる技術的事項を体系的に学ぶことを目的としている。特に、食中毒菌の名称や生育条件など、基礎的な知識については一定の暗記が不可欠である。例年、こうした基本事項の定着を図るため、ミニテストを実施し、事前・事後学習を促す仕組みを取り入れてきた。本年度も同様にミニテストを実施し、学習の反復を促した結果、受講者の理解度は概ね良好であり、基本的な内容の習得は達成できている印象を受けた。 今後も、受講学生には当該科目を通じて食品衛生に関する技術的理解を深め、専門科目を学ぶための確かな基盤を築いてほしいと考えている。そのため、単なる暗記にとどまらず、内容の背景や意味を理解することの重要性を授業内で繰り返し強調していきたい。
4141	食産業学群	有機化学	当該科目は、単なる暗記では対応できず、内容を深く理解することが求められる科目である。このため、授業内では「自ら考えることの重要性」を繰り返し説明し、理解を促すよう努めた。ただし、これまでの学習環境で暗記中心の学習に慣れてきた学生にとっては、こうした学習方法への適応に苦労している様子も見受けられた。しかし、学年が進むにつれ、暗記ではなく理解を重視する場面が増えるため、今後はより確実な学習習慣を身につけてもらう必要がある。当該科目の受講を通じて、この点をしっかり伝えられるよう授業を構成する。 授業では、配布資料を活用した演習時間を設け、学生同士の学び合いを促進することで理解の深化を図った。また、個別質問の機会も積極的に設け、丁寧な対応を心がけた。特に「再履修」となった学生については、これを前向きな学習機会と捉え、基礎を確実に固めるようにしてもらいたい。こうした取り組みにより、当該科目が今後の研究や専門学習の基盤となることを目指している。
4142	食産業学群	生化学	用語がわからないというコメントがあった。予習のためにPPTファイルを早めに提示しているにもかかわらず、予習不足と考えられるので、予習を徹底するために、来年以降ノートのチェックも行うこととする。 暗記の試験問題が多かったというコメントもあったが、練習問題でも出している問題でもあり、日ごからの学習不足である。
4143	食産業学群	栄養科学	栄養科学は身近な食生活や健康に関わる内容であることから、毎回の「振り返り」で興味深い質問・意見が多く、それらに対する回答・コメントを次の講義資料に掲載し、一部は口頭でも解説することで充実した内容となり、履修学生からも好評であった。また、「振り返り」で効果的に復習できることが「授業に関して良かった点」として挙げられた。本科目は学修内容が多いため、要点は資料にも明記するとともに授業中に強調して解説し、最終回に重要ポイントをまとめたことで効率よく復習しやすくなったことも、「良かった点」として挙げられた。また、スライド・資料の情報量も多くなりがちなので、より分かりやすくするよう常に改善を心がけているが、今後さらに工夫したい。
4144	食産業学群	微生物学	受講者の多い大規模授業でお互いやりにくい中、なるべく皆の反応を見ながら進めるようにはしたものの、相互コミュニケーションはまだ不十分とも感じている。微生物には未知のものが多くあり、無限の可能性が秘められている。微生物に興味を持った人は、ぜひ卒業研究で関係のある研究室を選ぶ等、実際に微生物を扱ってみてほしいと思う。次年度は、 ①授業内容の整理・明晰化 ②重要点の絞り込み ③授業中の学生-教員間の相互コミュニケーションの向上 を目指すこととする。特に③に関連して、アクティブラーニング的な要素（学生の発言・発表の機会）を盛り込むように工夫する。
4145	食産業学群	微生物学実験	時間割の同コマに置かれている環境科学を受講する者が圧倒的に多かったと聞いている。実験科目は時間が長くレポート作成の手間がかかるのに1単位しか付かないため履修をためらう者が多く聞いている。非常に残念なことである。後の専門的な学びに必要な知識や技術を学べることをしっかりと伝えていきたい。本科目は実験操作を主とするものであり、アクティブラーニングの要素は十分に含んでいるが、食品や生活環境からの検体の収集等、各自が主体的に計画・準備し作業に取り組めるよう、さらに工夫を進める。また、必修科目である食品衛生学実験でも微生物を取り扱うので、そちらと明確に差別化する。具体的には、微生物の生態や形態観察をより詳細に学び、さらに分子生物学的な取扱い技術も身に付くように工夫する。
4147	食産業学群	食品機能開発学	授業アンケート結果からも授業内容や実施自体に大きな問題点はないと思われる。テストは2人の教員分のボリュームがあるため、記述が大変であったコメントが見られた。学修到達を確認するためには程度は仕方がないが、次年度、問題数を絞ることも考慮する。